

宮若市老人クラブ連合会 第5ブロックふれあい訪問員活動の現状

上大隈老人クラブ「光明学院大学」
前会長 金川 學

○ 上大隈老人クラブ「光明学院大学」の沿革

上大隈の地で産声をあげた貝島大之浦炭坑、石炭から石油へのエネルギー革命の渦の中、炭鉱の閉山に伴い若者は職を求めて市外・県外へ。地元に残る高齢者。地域の高齢化を危惧していた故渡辺正利公民館長、町の公民館関係者と大分市に研修視察で訪れた際「老人大学」を見聞。

「おもしろい。宮田町でも」と、さっそく上大隈で昭和36年、老人には「光明が大切」ということで名付けてクラブ名を「光明学院」として会員数46名で開設。昭和41年には光明学院大学に改称

4月入学式・毎月1回講師を招いての勉強会、10月落第式 春の遠足・秋の修学旅行 以後冬休み、休みが長くもったいないと12月には忘年会・3月には総会と内容も充実 『読売新聞評論 昭和42年10月21日掲載』
開設20・25・30・50・55・60周年記念誌を発行。

当初、炭坑離職高齢者(炭住生活)の参加が少なかったが、昭和39年度より会員数100名を超え、昭和53年には162名、平成2年まで3桁を維持、以降減少。令和5年62名(男性24名・女性38名：80歳以上44名)

その後上大隈公民館と連携し、地域活動の中核として積極的に活動。

○ 町表彰 2回 ○ 福岡県知事表彰 2回 ○ 全国老人クラブ会長表彰

○ ふれあい訪問員連絡会の活動経緯と現状

市老連発足後(平成18年に合併、宮若市となる)、高齢者事業を継承する中で、ふれあい訪問員事業の手法に若干の違いが認められ、平成22年若宮方式へ統一。

その後、ブロックの独自性を尊重する方向で今日に至っている。

第5ブロックは、3年前天竺下老人会の休会に続き、今年3月末には和の里老人クラブ和の会の休会で、上町老人クラブ・日陽松寿会・上大隈老人クラブ光明学院大学の3クラブとなった。

年間の定例開催日は、偶数月の第2金曜日、上大隈公民館で各クラブのふれあい訪問員が集合、予め市老連から指示された内容の「夫婦のみ」・「独居」・「昼間ひとり」等対象者の安否確認や健康状態などを報告。

報告に使われる言葉に「ほどほど元気」だというユーモア溢れる表現で会の流行語となった。ふれあうことが自助共助に繋がっていく場として、過去に学習した内容や高齢者対応の知識や経験を有する市の地域包括支援センター・在宅介護支援センター・社会福祉協議会等々の担当者や学習会で招聘

した宮田病院の健康講座で教示を受けた内容を復習。自らの体験等の紹介・訪問時の対応を想定問題で学習し、玄関先での異変感知後の初期行動・最終的には警察・消防等公的機関との連携等相互啓発に努めている。

○ 今後の問題点

空き家の増加・自治会への未加入者の増加・老人クラブへの加入減・高齢化の深化等々に直面する現在、当上大隈においては、東・西・中の3自治会のうち中自治会が本年3月末で離脱(含老人クラブ会員)、その後上大隈区の総会において老人クラブ会長が区の役員会の一員(変則的に現在まで老人クラブは区の運営に携われなかった)となる資格を得たという朗報。

全国平均の高齢化率を上まわる当市の現状を理解し、ふれあい訪問員制度を老人クラブだけの対応から多角的な地域社会全体の対応へと、共生社会への絶好の機会と捉えたいと思っている。